虹

ニュースレター No.88 December 2018

MICかながわ

特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ

〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
かながわ県民センター内
Tel：045－314-3368
Fax：045－342-7918
e-mail : mickanagawa@network.email.ne.jp
URL : http://mickanagawa.web.fc2.com/

ニュースレターは6月・9月・12月・3月発行の季刊紙です。

MICかながわ事務局とコーディネーターブースは、12月29日(土)～1月3日(木)　年末年始のため休業です。4日(金)からは通常通りの業務を行います。

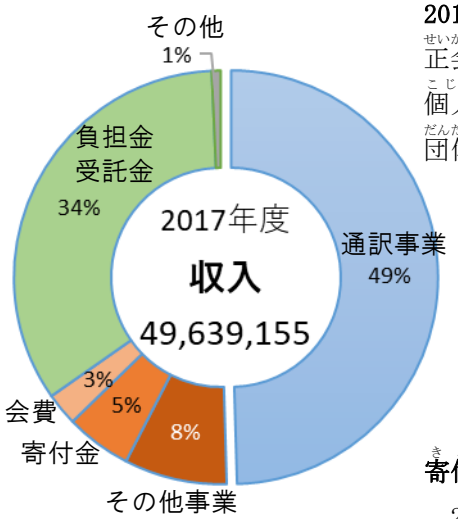
2018年もお世話になりました。2019年もどうぞよろしくお願いいたします。

MICかながわは、いただいた寄付をこのように使っています　続編

前号では、使途をある程度限定した寄付について報告をしました。それらは例えば冊子編纂といった目的を掲げた事業のための寄付であったり、推薦を受けて応募し当選しての不定期な寄付であったりしますが、一方でMICかながわの活動に賛同して毎年寄付をくださっている団体や個人の方たちもいらっしゃいます。ご支援いただき心から感謝申し上げます。

MICかながわの一番大きな事業は、言うまでもなく通訳派遣事業です。2017年度、医療では年間7,000件、一般（学校や児童相談所等への派遣）では350件を超える実績がありました。この通訳事業での依頼者(医療機関、学校等)からの通訳料が収入の約半分を占めていますが、支出のグラフにある通り通訳報償金として通訳してくださった方々にほぼそのまま支払われています。

収入の残り半分がMICかながわの運営資金となります。その約3分の2は県市町、医療機関、MICかながわ自身からの負担金や受託金です。残りが公開講座や講師派遣といった医療通訳事業以外の活動による収入、会員の方々に納めていただいている会費、そしてMICかながわの活動に賛同する個人や団体の方々による寄付から成っています。

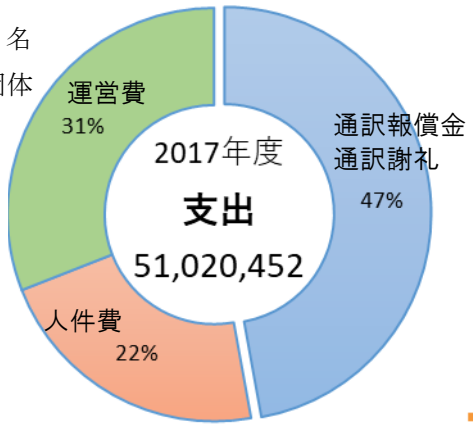


2017年度の会員数

正会員　63名
個人賛助会員　126名
団体賛助会員　6団体

寄付金額

2,552,761円



MIC かながわ自身が負担金を出しているの？

MIC かながわは、神奈川県の医療通訳派遣システム事業の協働事業者として毎年250万円の事業費を負担しています。皆さまからの会費や寄付金の多くはこの負担金に使わせていただいています。負担金の使い道は、コーディネーターの報償金(1 日 6,000 円)、新任通訳養成研修や現任通訳研修、このシステムを運営するための人件費などです。

活動実績や登録通訳スタッフ数を見れば大きく成長した MIC かながわですが、2017年度も収入が支出を下回っているように、団体として活動を継続していくためには盤石の財政基盤とは言えないのが実情です。NPO法人として存続していくためには十分な運営資金が必要です。また、認定NPO法人として「寄付金の総額が 3,000円以上である寄付者の数が、年平均100 人以上いること」が必要です。

右肩上がりで通訳実績は毎年増えていますが、それに対応するコーディネーターや事務局職員人件費資金として会員が納める会費はもちろんのこと、ひとりでも多くの方々からの寄付が大切な役割を担っています。

会員の皆様からの会費や寄付のおかげで、MIC かながわは医療通訳派遣システムの一翼を担うことができています。今後もこの活動を続けていくことができますよう、ご理解、ご支援をお願いします。なお、寄付（賛助会費を含む）は、税額控除の対象となります。

ある医療通訳スタッフの日記 Vol.12

医療通訳は、患者さんと医療者の間に存在することばの壁をなくすためにお手伝いをしています。命にかかわる通訳をすることも多く、とてもたいへんですが、皆、やりがいを感じて活動しています。どのような活動なのか、医療通訳スタッフからのエピソードを通してご紹介しましょう。

2015 年登録　J さん

MIC の医療活動に参加して丁度 3 年がすぎ、その中でいろいろな出会いがありました。「もう治りましたよ」「今回の検査結果は良性ですよ」とか、そういうハッピーな知らせを伝えるたびに自分まで笑顔になります。

ある日、平滑筋肉腫の患者さんと出会いました。すでに遠隔転移となり、CT画像に数えきれないほど癌の影が広がっています。化学療法を受けたことによって「ここは小さくなったよ」「でもここは増えた」と、患者さんの心情は先生に告げられた一言一言に揺れ動きます。もう化学療法で癌細胞が収まる状態ではないのか、先生は積極的に次の化学療法を受けることは勧めず、ただ痛みのレベルを確認し、緩和の薬を処方しました。患者さんは諦めず、先生に質問を投げかけました。「先生、今年医学ノーベル賞を受賞された免疫療法はどう思いますか？　費用はどのくらいかかりますか？」「免疫療法は神ではない。ごく一部の種類のがん細胞に効果があるが、患者さんの場合は対象外です。費用が高いことは言うまでもなく、ここの病院は保険医療なので、こういう治療法を投入していません。」先生はきっぱりと現状を説明しました。それを通訳した瞬間、患者さんの表情は複雑で、ほっとした様子にも見えました。多分、それは、お金が理由で生きる希望を手放さなくて済んだ安堵感でしょうか。別れるとき、どんな言葉をかけたらいいのか、初めて言葉の無力さを感じました。

今は、医療通訳とは、悪い知らせを伝えることを恐れず、患者さんが気持ちの整理をしたり、生き方を選択をしたりするのに欠かせない大事な役割だと思うようになりました。

この光景は冗談ではないのです。

ここまでニーズが増えるとは、医療通訳の派遣が始まった頃は思いもしていませんでした。

1日に 2件、3件を一人の通訳さんにお願いすることが、最近では珍しくない状況です。

皆さん、体調に気をつけてくださいね。

MIC ちゃん 10 「はしご de 通訳」

言語別自主勉強会情報（報告） 2018年10月～12月開催分

言語グループ	日時	会場	内容
中国語	10月27日(土) 10：00～12：30	かながわ県民センター	不妊治療について
スペイン語	10月20日(土) 13：30～15：30	かながわ県民センター	ペルーの産婦人科事情
	11月17日(土) 13：30～15：30	かながわ県民センター	事例検討
ポルトガル語	11月18日(日) 13：00～16：00	かながわ県民センター	検査時の言い回し／表現法の確認／事例検討
タイ語	12月23日(日) 13：30～16：00	MICかながわ事務所	事例検討
英語	11月4日(日) 13：00～16：30	横浜市西区福祉保健活動拠点フクシア	言語療法（ＳＴ）全般：失語症、高次脳機能障害疾患、吃音症、治療など
フランス語	11月29日(木) 13：00～16：00	かながわ県民センター	皮膚科関連単語確認（発音練習）／ロールプレイ

MICかながわは Twitter や Facebook で情報を発信しています。

Twitter のアカウント

@MIC_Kanagawa

Facebookページ
www.facebook.com/Mickanagawa

Twitter や Facebook にアカウントをお持ちの方は、MIC かながわの活動や情報がより多くの方に伝わるよう、ご協力をお願いします。

10 月 6 日(土)　つくば市国際交流協会「第 7 回医療通訳ボランティア養成講座」
講師派遣：三木中国語通訳、矢島 Co.・英語通訳（アシスタント）
10 月 9 日(火)　葉山町外国語講座 vol.7　やさしい通訳講座(英語)　講師派遣：田中 Co.・英語通訳
10 月 9 日(火)　済生会横浜市東部病院　国際委員会「異文化理解の勉強会」
講師派遣：草間 Co.・中国語通訳、星中国語通訳
10 月 13 日(土) 医療通訳ボランティア養成研修第 3 回
10 月 14 日(日) 群馬県人権男女・多文化共生課「群馬県医療通訳ボランティア養成講座」
講師派遣：鈴木万里子英語通訳
10 月 16 日(火) 災害多言語支援センター設置運営訓練　講師派遣：岩本理事・Co.・ポルトガル語通訳
10 月 18 日(木) 医療従事者向け WEB サイト「m3.com」取材　対応：飯島事務局長
10 月 20 日(土) 医療通訳ボランティア養成研修第 4 回
10 月 21 日(日) カトリック藤沢教会バザー参加
10 月 21 日(日) 群馬県人権男女・多文化共生課「群馬県医療通訳ボランティア養成講座」
講師派遣：鈴木万里子英語通訳
10 月 24 日(水) コーディネーター会議
10 月 26 日(金) 読売新聞電話取材　対応：松野理事長、佐藤事務局スタッフ
10 月 26 日(金) MIC かながわ理事会
10 月 28 日(日) 群馬県人権男女・多文化共生課「群馬県医療通訳ボランティア養成講座」
講師派遣：鈴木万里子英語通訳
10 月 31 日(水) 医療通訳公開講座英語中級クラス(水曜日クラス) 開講
11 月 4 日(日)　外国人無料健康相談会　於：カトリック藤沢教会
11 月 7 日(水)　医療通訳派遣システム事業　新任医療通訳スタッフオリエンテーション
11 月 8 日(木)　第 1 回かながわ一般通訳協力者研修会
11 月 11 日(日) 長野県佐久市健康づくり推進課「ジャパンブランド『健康長寿』推進事業通訳養成講座」
講師派遣：佐藤理事・中国語通訳、荒井タイ語通訳
11 月 13 日(火) 都立松沢病院研修会
11 月 14 日(水) 丸善出版 DVD「実際に起こったトラブルから学ぶ！現場で役立つ外国人患者とのコミュニケーション」制作インタビュー
対応：岩本理事・Co.・ポルトガル語通訳、倉橋タガログ語通訳
11 月 19 日(月) 医療通訳公開講座英語中級クラス(月曜日クラス) 開講
11 月 20 日(火) 神奈川県消防学校教育訓練(第 2 回)　講師派遣:星中国語通訳、ヒューバート会員(英語)、バルガス事務局スタッフ(スペイン語)
11 月 22 日(木) 日本 NPO センター　市民セクター全国会議 2018　分科会 10「連携で支えあう地域医療とくらし」　スピーカー派遣：岩元副理事長・Co.・英語通訳
11 月 26 日(月) コーディネーター―会議
11 月 30 日(金) 葉山町「異文化コミュニケーション基礎講座」　講師派遣：アビー英語通訳
11 月 30 日(金) MIC かながわ理事会
12 月 1 日(土)　第 2 回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修
12 月 2 日(日)　長野県佐久市健康づくり推進課「ジャパンブランド『健康長寿』推進事業通訳養成講座」
講師派遣：佐藤理事・中国語通訳、荒井タイ語通訳
12 月 5 日(水)　生活保護専門通訳研修会
12 月 5 日(水)　葉山町「外国語講座 vol.8 通訳講座中級編(英語)」　講師派遣：田中 Co.・英語通訳
12 月 6 日(木)　仙台市観光国際協会「第 5 回コミュニティ通訳育成講座」
講師派遣：岩本理事・Co.・ポルトガル語通訳
12 月 8 日(土)　第 3 回国際臨床医学会学術集会　「医療通訳者の認証制度」
演者派遣：岩本理事・Co.・ポルトガル語通訳
12 月 11 日(火) MIC かながわ理事会
12 月 15 日(土) 滞日ネパール人のための情報提供ネットワーク「ネパール語通訳者のためのスキルアップワークショップ」　リソース・パーソン：岩元副理事長・Co.・英語通訳
12 月 18 日(火) 千葉大学医学部附属病院「第 1 回　医療現場での通訳ロールプレイ練習」
講師派遣：森田英語通訳
12 月 20 日(木) 長野県国際課　「医療通訳を考えるシンポジウム」基調講演　演者派遣：松野理事長
12 月 26 日(水) コーディネーター―会議

● 活動予定 ●

1月11日(金)　川崎市聴覚障害者情報文化センター　川崎市登録手話通訳者現任研修
「地域で活躍する医療通訳者の現状と団体の活動について」
講師派遣：岩元副理事長・Co.・英語通訳
1月17日(木)　医療通訳公開講座中国語基礎クラス開講
1月19日(土)　第1回コミュニティ通訳養成講座（希少言語）
1月26日(土)　第2回コーディネーター研修
1月29日(火)　済生会横浜市東部病院「中国文化講演会」
講師派遣：草間Co.・中国語通訳、星中国語通訳
1月31日(木)　多言語支援センター　医療関係者研修
2月10日(日)　川崎市国際交流協会「コミュニティ通訳セミナー（タガログ語）」
講師派遣：岩本理事・Co.・ポルトガル語通訳、鈴木ミリアムタガログ語通訳
2月15日(金)　神奈川県外国籍県民支援・相談機関連絡会
参加：岩本理事・Co.・ポルトガル語通訳、高木事務局スタッフ
2月15日(金)　国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科学生向け特別講演
医療通訳制度紹介、通訳体験談　　講師派遣：岩元副理事長・Co.・英語通訳
2月16日(土)　第2回コミュニティ通訳養成講座（希少言語）
2月23日(土)　医療通訳公開講座スペイン語集中講座開講第1日目
2月24日(日)　医療通訳公開講座スペイン語集中講座開講第2日目
2月25日(月)　第2回かながわ一般通訳協力者研修会
2月28日(木)　東京都中国帰国者対策「自立支援通訳員等に対する医療通訳研修会」
講師派遣：沢田理事、佐藤理事・中国語通訳、三木中国語通訳
3月2日(土)　第3回医療通訳スタッフ・コーディネーター研修
3月3日(日)　外国人無料健康相談会　於：青葉国際交流ラウンジ
3月9日(土)　山梨県国際交流協会、山梨県立大学看護学部「医療通訳セミナー」
講師派遣：岩本理事・Co.・ポルトガル語通訳、他

●2018年度医療通訳ボランティア新任養成研修

第3回

日時：10月13日(土)
会場：神奈川県立国際言語文化アカデミア
内容：通訳実技

第4回

日時：10月20日(土)
会場：神奈川県立国際言語文化アカデミア
内容：通訳実技、選考

今年度は、応募者総数は84名。選考を通過し登録となった方は、スペイン語5名、英語5名、ベトナム語6名、カンボジア語1名、ネパール語2名の計19名でした。

オリエンテーション

日時：11月7日(水)10：00～12：00
会場：かながわ県民センター15階共用研修室

MICのイベント(報告)

オリエンテーション
松野理事長より委嘱状授与

スライドショー
医療通訳派遣の流れ

参加者：2018年度登録者17名（2名欠席）
内容：医療通訳派遣システム事業概要について／医療通訳スタッフ派遣の手続きについて／災害時の通訳派遣について／協定医療機関の概要について／コーディネーター業務の紹介／その他／コーディネーターとの意見交換

2018年度の新規登録者に対して、これから医療通訳スタッフとして活動するにあたり必要な情報を国際課および MIC かながわ事務局から伝えました。その後はコーディネーターと懇談。今年の新規登録者からは具体的な質問が次々と飛び出し、熱意が伝わってきました。

●外国人無料健康相談会

日時：11月4日(日)11：00～16：00
会場：カトリック藤沢教会(藤沢市)
内容：胸部X線、血圧、尿検査、身体測定、医師による問診
受診者：9名（国籍5か国）
通訳派遣：3人（スペイン語、タガログ語、英語）

●第1回神奈川県一般通訳協力者研修

日時：11月8日(木)15：00～18：00
会場：かながわ県民センター　301会議室
テーマ：「コミュニティ通訳の基礎」
講師：MICかながわ理事・Co.・ポルトガル語通訳　岩本弥生氏

今回は、あまり通訳の経験がない方を主な対象とし、中国語9名、ポルトガル語5名、スペイン語5名、タガログ語2名、韓国・朝鮮語、シンハラ語、イタリア語、英語各1名の計25名の方が出席しました。

前半は、MIC かながわのポルトガル語通訳スタッフで通訳コーディネーターの岩本弥生さんによる通訳の基礎についての講義で、50分という短い時間でしたが、通訳として活動する場合の心得など、基本的なことを学びました。その後、事務局からかながわ一般通訳支援事業制度および災害時通訳についての説明をしました。

後半は、言語ごとのグループに分かれて、ロールプレイです。高校の保護者面談での会話をシナリオにして、ネイティブの保護者役と先生役を配し、参加者の方に順番に通訳をしてもらいました。初めての方が多かったので、みなさん緊張していましたが、だんだんと盛り上がっている様子でした。

●感染症（結核・HIV）通訳養成講座

第1部　感染症通訳のための基礎講座

日時：11月24日(土)10：00～16：30
会場：オフィス東京（東京駅八重洲口徒歩5分）
受講者：36名（9言語）
内容：医療通訳に必要な結核・エイズの基礎知識
1.「外国人に対するHIV検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究班」紹介

なぜ結核・エイズの通訳が重要か
講師：杏林大学総合政策学部教授　北島　勉氏、港町診療所所長　医師　沢田貴志氏

2. 結核の基礎知識　講師：港町診療所所長　医師　沢田貴志氏
3. 通訳技術の基礎　講師：杏林大学外国語学部教授　宮首弘子氏
4. HIV とセクシュアリティーについて　講師：多摩大学非常勤講師　砂川秀樹氏
5. 保健所業務とエイズ、結核の支援（医療費制度含む）
講師：東京都新宿区役所健康部　三宅慧氏
6. エイズの基礎知識　講師：港町診療所所長　医師　沢田貴志氏

第 2 部　感染症通訳のための実技演習（中国語、ネパール語、ベトナム語限定）

日時：11 月 25 日（日）10：00～16：00
会場：オフィス東京（東京駅八重洲口徒歩5 分）
受講者：16 人
内容：講義

1. 医療通訳の心得　講師：港町診療所所長　医師　沢田貴志氏
2. 通訳技術　講師：杏林大学外国語学部教授　宮首弘子氏
3. 実技演習
言語グループ別ロールプレイ　講師：杏林大学教授　宮首弘子氏
ネパール語グループ指導　MIC かながわ副理事長・Co.・英語通訳　岩元陽子氏
ベトナム語グループ指導　MIC かながわ理事・Co.・ポルトガル語通訳　岩本弥生氏
中国語　2 グループ、ネパール語、ベトナム語

厚生労働科学研究費補助金による「外国人に対する HIV検査と医療サービスへのアクセス向上に関する研究班」の協力により実施されました。

病院や保健所などから外国人の感染症患者（結核と HIV／AIDS）の通訳等の支援依頼を受ける可能性がある人を対象とし、感染症に対する正しい知識と通訳としての的確な技能を習得することを目標としています。

●第 2 回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修

日時：12 月 1 日（土）13：15～16：45
会場：神奈川県立国際言語文化アカデミア　1F ホール
テーマ：第 1 部　「脳血管障害の発生、治療、リハビリテーションについて」
講師：済生会神奈川県病院　副院長・リハビリテーション科部長　森俊樹氏
第 2 部　「脳卒中になった人を支える～急性期治療からリハビリ、在宅介護まで～」
講師：済生会神奈川県病院　ソーシャルワーカー　渥美昇平氏

脳卒中、脳梗塞、脳出血等よく聞く病名の症状から治療法、リハビリの各療法について動画を交えながらお話しいただきました。特に、生活習慣に関する脳卒中予防10 か条は、川柳のようにわかりやすく簡潔にまとめてあり、普段から健康のために役に立ちそうです。

講義では、脳血管障害で入院された患者さんがリハビリテーションを経て、どのように次の段階につながっていくかを一連の流れとして学ぶことができる機会となりました。

参加者のアンケートの一部をご紹介します。

【脳血管障害の発症、治療、リハビリテーションについて】

■脳疾患発生の仕組み等が理解できた。リハビリに対する過大な期待はリハビリを遅滞させる⇒「留意すべき点」と思う。

■今は脳卒中は死因の第4位になっているが、要介護原因の第1位となっている現場を改めて知ることができました。この病気の予防は非常に重要なことであると痛感しております。日常生活の自己管理が大事だと、自分に言い聞かせるようにしています。

■リハビリは、その方の疾患だけでなく生活全体を見るということ。

■脳の病気たくさんある。発症もいろいろ。突然急に起こるのと、ゆっくり起こるものがあるので、患者さんのお話を聞いて診断するのが大事。予防するのも大事です。リハビリは医師と患者だけじゃなくたくさんの人が関わる。

■脳血管障害は突然起こり、かつ、要介護原因は第1位。家族や周囲の者の気づき（早期）の役割が大きい。

■他人事の問題とは思えず、ためになる話でした。嚥下障害にはむせない場合もある。失語症の定義。単に話すことだけの障害ではない。医師は忙しく早口になりがち。また説明も丁寧にすると長くなる。それを正確に通訳するには高度な技術と、日々のトレーニングが必要だと思った。

■とても発症率高い病気なので、勉強できてよかったです。脳卒中予防10か条を切り取って家の中の目立つところに貼りたいと思います。（笑）

■脳血管障害による死亡が減っていて、要介護原因の第一位となっていること、その結果リハビリテーション必須であること、リハビリテーションには時期や期間に制度として制約があることなど、病気の仕組みだけでなく体系的に説明していただきわかりやすかった。

■症状の種類やリハビリについてわかりました。機能障害と不全について言語として聞いたことがありましたが状況を示すという明確なルールがわかりました。

■ADL訓練、回復期リハビリ、リハビリに移行する時、在宅に移行する時など節目、節目に適切に通訳が入ると望ましいなと思いました。

■多岐に渡る内容を分かりやすくお話しいただいた。ほかに疾患を抱えた患者も多いこと。リハビリの手段も多い代わりに効果の差も大きいことが印象に残った。

■脳卒中の分類というのがはっきりわかって勉強になった。また、脳卒中で怖いのはそれで死ぬということよりも、それによって生活が大きく変わり障害が残って生きていくことの大変さだということが理解できた。

■いかに早く治療することが大事かがわかった。血液が流れなくなった時の神経細胞が壊死する速さに驚いた。病院で受けるリハビリタイミングや期間の制約があるという事がためになった。

■「患者さんの感情表出に巻き込まれず、冷静に対応する」という内容は印象深かった。

【脳卒中になった人を支える～急性期治療からリハビリ、在宅介護まで～】

■要介護原因の第１位となっている脳卒中には、リハビリが大事であり、退院後につながる介護保険の知識を知ることは必要であるが、今日の脳卒中を中心に急性期治療からリハビリ在宅介護までの一連の研修内容は、非常に実用的な日常生活に役立つと思います。

■急性期病院→回復期リハビリテーション病院→在宅に移行する場合、病気の前と後でできることとできないことを分析して整理することが大切だというお話とても参考になりました。変化を整理すると冷静に患者とその家族、周りの人々が状況を受け止めることができると思います。

■外国語での対応は本当に大変だと思う。人手不足のため入管法を改めると言うが、こういう部分もきちんと考えておかないとまずい。

■急性期回復期病院への入院は日数期間など厳しく決まっている。もし家族が脳卒中になって在宅介護が必要になった時に考えなければいけないポイントを、具体的に示してくださり少しイメージが湧きました。

■安心してリハビリを受けて治療に長期専念できるのが理想なのに、厳しい現実を知る。

■大勢の方々のお世話になることと、費用のことを考えると恐ろしくなりました。

■対面の通訳は自動翻訳機や電話通訳とは違い患者さんと病院をつなぐ大切な役割があるという言葉に元気づけられました。

■転院の必要性。神奈川県の現状を知ることができた。介護保険の正確な情報を入手できた。

■外国人の在宅介護の問題は、当該国の人たちの中でも考えるべき課題であり、通訳や日本の制度に頼る、あるいは期待するのも、と考えさせられる内容でした。

■医療システム上、急性期病棟の入院期間限度等が決まっていること。それを前提に転院の計画を初期から立てなければいけないということなど知ることができました。

■在宅介護は家族の負担が大きいので社会が手助けできるよういろいろ考えるべきだと思います。

■傷病手当・障害年金・介護保険など自分で調べてもわかりにくい内容をプロの口から聞ける貴重な機会になった。

■なぜ転院しなければならないのかという事は病院のベッドが足りないからだと思っていたけれど保険にも関係してくるとは知らなかったので興味深かった。また、質問に対しての返答が非常にわかりやすく的確でとても勉強になったし、何しろ話がわかりやすかった。

■法律で定められたルールの中でその患者さんに合った居場所を決定することのむずかしさを痛感した。とても判りやすかった。人間を介した通訳は自動翻訳とは違うという言葉がとても嬉しかった。

●生活保護専門通訳研修

日時：12 月 5 日(水)15：30～17：30
会 場：かながわ県民センター　305 ミーティングルーム
テーマ：１．通訳に求められる生活保護制度の基礎知識
講師：神奈川県こども未来局福祉部
生活援護課生活保護グループ副主幹　磯崎貴史氏
２．生活保護専門通訳体験談
報告者：問屋正勝（スペイン語通訳）

神奈川県こどもみらい局福祉部生活援護課の担当職員による講義の冒頭で、新人ケースワーカーの教材用DVD を上映しました。「面接の技法」は通訳としても参考になりました。

福祉事務所を訪れる相談者は緊張と不安でいっぱいです。非言語的コミュニケーションもとりながら、隠されたメッセージもありのままに受けとめることが大事という面接の心構えは、通訳の対人援助スキルにも通じます。ケースワーカーは相談者との面接で、どのような援助が必要かを提案したり、必要なところにつなげていったりします。外国語でサポートする生活保護専門通訳は、生活保護制度やルールについて理解し、勉強しておくことが必要です。

後半では、県内の保健福祉事務所でも定期的に通訳として活動しているMIC かながわのスペイン語通訳スタッフが体験談を披露しました。どのような場面で通訳に入ったか、通訳が感じたケースワーカーのジレンマや生活困窮に陥った外国人の背景についての話がありました。通訳の姿勢としては、「足さない、引かない」正確な通訳をすること。ポリシーは、中立の立場で感情的にならないこと。そして、通訳の内容をすぐ忘れることが大切だそうです（守秘義務があるのでちょうどいい）。通訳スキルを上げること。「生活保護のしおり」をしっかり説明できるようにとのアドバイスももらいました。

MICのイベント(案内)

●コミュニティ通訳養成講座
（タガログ語・ネパール語・ベトナム語）

日時：1 月 19 日(土)
会 場：かながわ県民センター内
内容：ハローワークでの通訳
コミュニティ通訳の基礎

●コミュニティ通訳養成講座
（タガログ語・ネパール語・ベトナム語）

日時：2 月 16 日(土)
会 場：かながわ県民センター内
内容：保育園・幼稚園に関する通訳
ロールプレイ

●多言語支援センター　医療関係者研修

日時：1 月 31 日(木)18：45～20：40
会 場：かながわ県民センター内会議室
テーマ：イスラム教徒の患者の受入れについて

●第 2 回神奈川県一般通訳協力者研修

日時：2 月 25 日(水)18：45～20：40
会 場：かながわ県民センター内会議室
テーマ：児童相談所の業務

●第 3 回医療通訳スタッフ・コーディネーター現任者研修

日時：2019 年 3 月 2 日(土)13：15～16：45
会 場 ：神奈川県立国際言語文化アカデミア　1F ホール
テーマ：第 1 部　「耳鼻咽喉科の 話 」（仮題）
　　第 2 部　「医療通訳をとりまく 現 状」（仮題）

手芸部だより

MIC かながわ会員および通訳スタッフの皆様へ

冬本番となりましたが皆様お変わりないでしょうか。

手芸部は 10 月のバザーに続き、藤沢カトリック教会12 月 9 日のミニバザーに出店させていただきました。手がかじかむような寒い日でしたが、出店する人も買ってくださる人も優しさにあふれていて、心はほんわか温まりました。事前の売り上げも含めた 29,170 円の収入は MIC かながわに寄付いたします。ご協力くださった方々に報告と共に感謝申し上げます。

さて、手芸カフェの日は手を動かしながらお喋りにも花が咲きますが、ある日の話題は「茶」でした。「茶」は世界中で飲まれていますが、言葉としては「cha（チャ、チャイ、シャイ等と発音する系統）」と「te（ティー、テ、デ等と発音する系統）」の 2種類しかありません。どちらも発祥は中国で、cha はシルクロードを通じて陸上伝播、te は福建の発音でオランダの東インド会社を通じて海を渡って広まったというのです。

そう言われてみると、なるほどと思い当たりますね。皆さんの出身国や知っている言葉でお茶のことを何と呼んでいますか？

日本では「チャ」と呼び、奈良・平安時代（8世紀～12世紀）に留学僧が唐（当時の中国）よりお茶の種子を持ち帰ったのが最初と言われ、その頃は大変貴重なもので上流階級の人しか口にできませんでした。鎌倉時代初期（12世紀末）、栄西禅師が宋（当時の中国）からお茶を持ち帰り『喫茶養生記』を書いたのが日本最初のお茶に関する専門書です。当時の将軍・源実朝がお酒を飲み過ぎた時、栄西は将軍に“薬”としてお茶を勧めたそうです。その後、武士階級に広まり、戦国時代（16世紀）に千利休らによってお茶の礼式が作られ、現在につながる「茶道」として完成されました。

お茶を飲みながら、たった 1種類の「茶」が世界中に広まった歴史を思い描いてみるのも楽しいですね。

お茶は風邪予防にも効くとのこと、体調管理に取り入れて元気に良い年をお迎えください。

手芸部一同

毎年好評クリスマスグッズ

カトリック藤沢教会バザー出店

ことばで支える　いのちとくらし

2018年度の会費をお願いします。
会費は 4 月から翌年3 月までの年度会費です。

●新規会員・継続会員の方
正会員：6,000 円
個人賛助会員：１口　3,000 円
団体賛助会員：１口 10,000 円
（賛助会費は寄付扱いとなります）

【会費振込先】
みずほ銀行　横浜駅前支店
普通3819349
口座名義：特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ

ゆうちょ銀行
口座：00270−2−55771
口座名称：MIC かながわ

MIC かながわは認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）です。
寄付は所得税の寄付金控除、または税額控除、いずれか有利な方の適用を受けることができます。また、神奈川県にお住まいの方は個人県民税の寄付金控除の適用も受けることができます。
会員はいつでも募集しています。ぜひ会員になって私たちの活動を支えてください。

事務局からのお知らせとお願い

～経費節減にご協力のお願い～

今後、MIC からのお知らせはＥメールのみでかまわないという方で、その旨まだご連絡いただいていない方は、お手数ですが事務局までご一報願います。

～書き損じハガキを寄付してください～

もし、ご家庭に書き損じ郵便ハガキや未使用切手が眠っていましたら、ご寄付をお願いします。事務所にお送りいただくか、研修等でお会いできる機会があれば事務局スタッフにお渡しください。事務局での業務に利用させていただきます。ご協力よろしくお願いします。

確定申告しましょう
税控除の対象です

編集後記

◆今年も車で九州の実家に帰ります。往復３日かけて父母に会えるのは１日ちょっと……。大晦日は京都あたりで車中泊の予定。楽しみます！（K. M）

◆皆さんは記念日を大切にする派？　そうでもない派？　私は数日前には覚えているのに当日はすっかり忘れてしまって、指摘されて真っ青になることがしょっちゅうです。今年もまたやってしまいました（>_<）（M. N）

Multi-language Information Center
MICかながわ
特定非営利活動法人
多言語社会リソースかながわ
発行人　松野勝民
編集・発行　MIC かながわ事務局

〒221-0835
横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
かながわ県民センター内

Tel：045−314-3368
Fax：045−342-7918
e-mail : mickanagawa@network.email.ne.jp
URL : http://mickanagawa.web.fc2.com/